

主題研究

教科との関連を図る

小・中学校総合的な学習の時間の改善に関する研究 - 総合的な学習単元カリキュラムのリフォームをとおして - (第1報)

教科領域教育室 齊 藤 義 宏

研究協力校

東和町立土沢小学校

花巻市立花巻北中学校

研究の概要

この研究は、総合的な学習の時間の単元カリキュラムのリフォームをとおして、小・中学校における教科との関連を図る総合的な学習の時間の指導の改善に役立てようとするものである。

第1年次の研究の結果、教科の評価規準を参考にし、教科との関連を考えれば、教材や題材、学習活動と身に付けた資質や能力との関連が明らかになること、関連事項は、計画レベル、実践レベル、学びの内面レベルという各段階に位置付くこと、各レベルでの関連事項を指導計画に意図的に組み込むことができることが分かった。また、これらのことを基に、総合的な学習単元カリキュラムのリフォームの方法や手順を明らかにした試案の作成を行った。

キーワード : 小・中学校総合的な学習の時間 教科との関連 リフォーム 見取りの視点
教材や題材、学習活動による関連 身に付けた資質や能力による関連

研究目的

生きる力をはぐくむ総合的な学習の時間が試行期を経て実践段階に移り、着実な成果を上げつつある。一方、教科における基礎的・基本的な内容の確実な定着を求める要請が高まる今日、教科との関連を図りながら、児童生徒の資質や能力を一層高める総合的な学習の推進が強く求められている。

しかし、各教科で身に付けた学習の内容や方法、知識や技術などを総合的な学習の時間に十分に生かした実践例や、総合的な学習の時間で培われた自主性や課題解決の力などが、教科の学習の中に具体的に現れている実践例が多いとは言えない現状がある。これは、計画段階において互いに相乗・補完し合う資質や能力などの関連を意図したカリキュラムの構成がなされていないことによるものと考えられる。

このような現状を改善するためには、これまでの総合的な学習の時間の学習単元カリキュラムを教科との関連から分析と考察し、生きる力につながる学習意欲や学び方などを仲立ちとし再構成、すなわちリフォームする方法や手順を検討し、児童生徒の資質や能力を一層高めるための在り方とその方法を構造化する必要がある。

そこで、この研究は、総合的な学習の時間の単元カリキュラムのリフォームをとおして、小・中学校における教科との関連を図る総合的な学習単元カリキュラムの在り方を明らかにし、総合的な学習の時間の改善に役立てようとするものである。

研究仮説

1 基本仮説

全国及び本県における総合的な学習の時間の学習単元カリキュラムにおける教科との関連の状況を先行事例等により把握し、その分析と考察の上に立って、総合的な学習の時間の単元カリキュラムをリフォームする方法や手順を検討し、教科との関連を図る総合的な学習単元カリキュラムの在り方を提示するならば、総合的な学習の時間の改善に資することができるであろう。

2 本年度の作業仮説

作業仮説 1

総合的な学習の時間と教科の学習において、学習内容と学び方に視点を向けると関連の方向性が見られるであろう。

作業仮説 2

観点別学習状況の評価を基にして、教材や題材、学習活動と資質や能力を分類・整理すれば、関連事項が明らかになるであろう。

作業仮説 3

明らかになった関連事項を「どのように」つなげるかを工夫すれば、教科との関連を図る総合的な学習の時間のリフォーム試案を作成することができるであろう。

手順 1

総合的な学習の時間の学習単元カリキュラムにおける教科との関連状況を把握する。
・先行事例の収集 ・中教審中間まとめ 等

手順 2

総合的な学習の時間と各教科の中に見られる学習内容と学び方における関連性を検討する。
・先行事例の分析と考察 ・学習活動
・支援(内容・方法) ・評価の観点、規準

手順 3

教科との関連を図る総合的な学習の時間のリフォーム試案を作成する。
・リフォームする方法や手順

本年度の研究の内容

1 研究の目標

教科との関連を図る小・中学校総合的な学習の時間の基本的な考え方を検討し、その基本構想を立案する。また、先行事例の分析と考察により、教科との関連を図る小・中学校総合的な学習の時間の課題や改善の方向を検討し、教科との関連を図る総合的な学習の時間のリフォーム試案を作成する。

2 研究の内容

- (1) 教科との関連を図る小・中学校総合的な学習の時間の基本的な考え方の検討
教育課程審議会「答申」を、総合的な学習の時間における教科との関連を考える基本に据えて、総合的な学習単元カリキュラムのリフォームについて検討する。
- (2) 教科との関連を図る小・中学校総合的な学習の時間の基本構想の立案
教材や題材、学習活動や身に付けた資質や能力が相互に関連し合う総合的な学習単元カリキュラムのリフォームの視点を明らかにし、基本構想を立案する。
- (3) 総合的な学習の時間の先行事例の分析と考察
総合的な学習の時間の学習単元カリキュラムにおける教科との関連状況を把握するために、総合的な学習の時間の先行事例等の分析を行う。
- (4) 教科との関連を図る総合的な学習の時間のリフォーム試案の作成
総合的な学習の時間のカリキュラム評価チェックシートを作成し、リフォームの全体手順と方法を盛り込んだ教科との関連を図る総合的な学習の時間のリフォーム試案を作成する。

教科との関連を図る小・中学校総合的な学習の時間の基本構想

1 教科との関連を図る小・中学校総合的な学習の時間の基本的な考え方

総合的な学習の時間は試行期を経て実践段階に移り、そのねらいに沿って、各学校の創意工夫を生かした教育活動の展開がなされ、総合的な学習の時間が体系化されてきた。その一方で、学力低下論が展開される今日、様々な学力向上対策が図られ、総合的な学習の時間においても、児童生徒の資質や能力を一層高め、学習の成果が形として見られるように、教科との関連の重要性が問われている。しかし、この理由だけで教科との関連を考えては、総合的な学習の時間の創設のねらいから外れていくおそれがある。今一度、総合的な学習の時間の原点に立ち返ってみる必要があり、その原点は、総合的な学習の時間が創設された次のような趣旨に見ることができる。

教育課程審議会「答申」 各教科等それぞれで身に付けられた知識や技能などが相互に関連付けられ、深められ児童生徒の中で総合的に働くようになる。	(平成10年7月)	教科等の学習の成果を相互に関連付け、総合的に働くようにすることに総合的な学習の時間が創設された趣旨が見られる。
--	-----------	---

教科等の構成の在り方と深く関係している教育課程審議会の答申の内容は、総合的な学習の時間と教科との関連を考える基本であり、これからの教育の方向に大きな視点を示していると考えられる。

このような視点で総合的な学習の時間と教科を見てくると、教科との関連を考える原則を次のように明確に捉えることができる。

総合的な学習の時間と教科との関連を成立させるためには、児童生徒一人一人が各教科の基礎・基本を確実に身に付けていることが必要な条件である。 総合的な学習の時間と教科の学習においては、それぞれの学習の成果が相互に生かされ発揮されなければならない。 総合的な学習の時間と教科とは、それぞれがもつ次の二つの特質から相互の関連を図るようになる必要がある。 教材や題材、学習活動による関連 身に付けた資質や能力による関連
--

2 総合的な学習単元カリキュラムのリフォームについての基本的な考え方

総合的な学習の時間においては、教育課程の趣旨(課題について知識を身に付けることや課題を具体的に解決することが目的ではない)をふまえることが大切であり、内容よりも学び方を重視する。しかし、教科等における学習内容・方法の定着がなければ総合的な学習の時間が十分に展開されない。総合的な学習の時間が教科等と関連して十分に展開されるためには、総合的な学習の時間が学

校全体の教育課程に位置付き、根付くものにする必要がある。このような考えから、総合的な学習の時間だけを考えるのではなく、学校の教育目標の具現化を図る視点から、教科と道徳、特別活動、そして総合的な学習の時間がそれぞれの特質を大切にしつつ、相互に関連をもたせていくことが大切になってくる。総合的な学習の時間においては、学習単元カリキュラムをリフォームすることによって各教科の学習で身に付けられた知識や技能、資質や能力などを生かし、それらをつながながら学んでいくという質の高い「学び」が期待される。そこで、本研究におけるリフォームを次のように考え研究を進めていく。

教科との関連を図る学習単元カリキュラムの在り方を提示するために、総合的な学習の時間の実践の蓄積の中から、望ましい総合的な学習の時間の姿を再構成していく作業

作業の視点としては、次の4点である。

- ・ これまでに学習した教材や題材、学習活動が、これからの総合的な学習の時間にどのように関連しているか。
- ・ これまでの教科の学習で身に付けた資質や能力が、これからの総合的な学習の時間にどのように関連しているか。
- ・ 総合的な学習の時間の学習の成果や経験などが、これからの教科の学習にどのように関連しているか。
- ・ 関連事項をつなげる手だてをどのようにするか。

総合的な学習単元カリキュラムにかかわる先行事例の分析と考察

過去の岩手県教育研究発表会資料及び当センターが全国から収集した研究資料の先行事例等を基に、これまでの総合的な学習単元カリキュラムを教科との関連から分析と考察を行った。

1 総合的な学習単元カリキュラムの現状

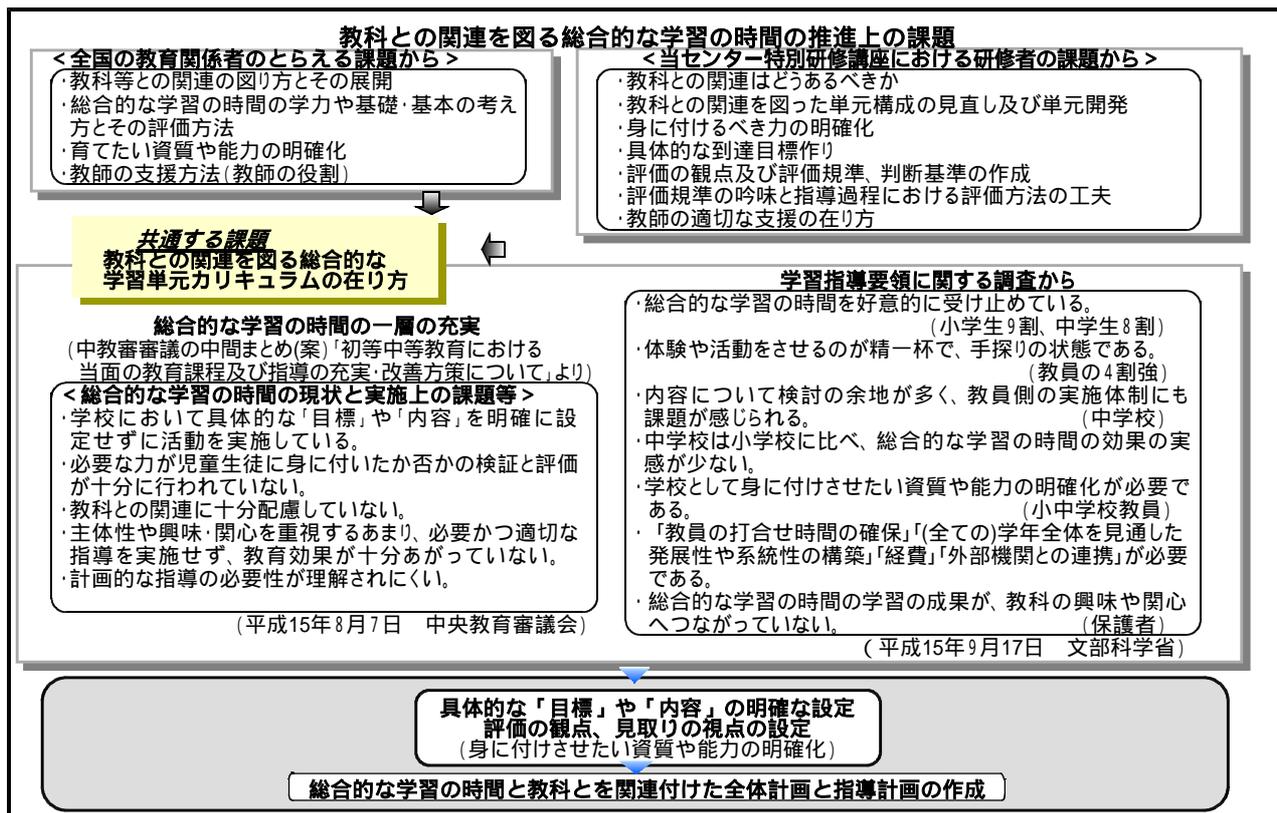
本県においては、総合的な学習の時間の年間指導計画を作成する上で単元や教材を関連として取り扱う程度で、教科との関連を主題とした研究資料は見られない。また、全国においても同様であった。つまり、相互の関連を「何で関連させるのか」「どのように関連させるのか」といった具体的な手だてがあまり図られていない実態がうかがわれる。これは、目標や内容が明確な教科とは違い、総合的な学習の時間はねらいだけが示され、各学校の創意工夫を生かした教育活動を展開し、特色ある学校づくりが期待され、推進されてきたことによると思われる。その結果、創設のねらいが徹底されず、教科と総合的な学習の時間とを対立して捉える学力観の不協和音が感じられる。

2 教科との関連を図る小・中学校総合的な学習の時間の推進上の課題と改善の方向

(1) 推進上の課題

次頁【図2】に示すように、「教科との関連を図る総合的な学習の時間の推進上の課題」について、全国と本県を比較した場合に、双方に共通した内容が多く、「学習単元カリキュラムの在り方はどうあればよいか」という課題を見いだすことができる。また、中央教育審議会の中間まとめによる「全体計画の義務付け案」は、全国的な課題として対応しなければならない。

本県の特徴として小・中学校共通にあげられるものは、「基礎・基本の習得と総合的な学習の時間の内容や方法をどのように関連付けるか」という教科に関する課題である。したがって、総合的な学習の時間のどの単元内容と教科のどの単元内容を関連させるのかが明確に示されるだけでなく、それらを「何で」「どのように」つなげていくのかを児童生徒に育てたい力や児童生徒の願い等から選択し、年間指導計画に位置付けていくことが必要であると考えられる。



【図2】教科との関連を図る総合的な学習の時間の推進上の課題

(2) 改善の方向

次に、これらの課題をふまえ、総合的な学習単元カリキュラムを改善するために、前述したりフォームの視点から以下のような三つのレベルで見直しを図りたい。

ア 計画レベルにおける見直し

(ア) 目標及び内容の見直し

総合的な学習の時間の推進は、学校教育目標の具現化を図るという原点に戻ることである。第一に、総合的な学習の時間において育てたい児童生徒の資質や能力を検討し直す。その作業の中で、「何のために」総合的な学習の時間と教科とを関連させるのか、どのような力を育てたいのかを十分に検討し、共通理解を図る。内容については、これまで積み上げてきた実践を大切にしながら、教育課程でかかっている指導の重点や特色を重視していく。そして、「何で」「どのように」関連させるかを明確にし、教科との関連が可能なものを洗い出して、全体計画と年間及び単元指導計画に位置付けることが大切になる。

(イ) 評価の観点及び見取りの視点

教育課程審議会答申(平成12年12月4日)は、総合的な学習の時間の評価にあたっては、観点別評価を採用するように提言し、その際の観点について以下のような三つの例示をした。つまり、評価に

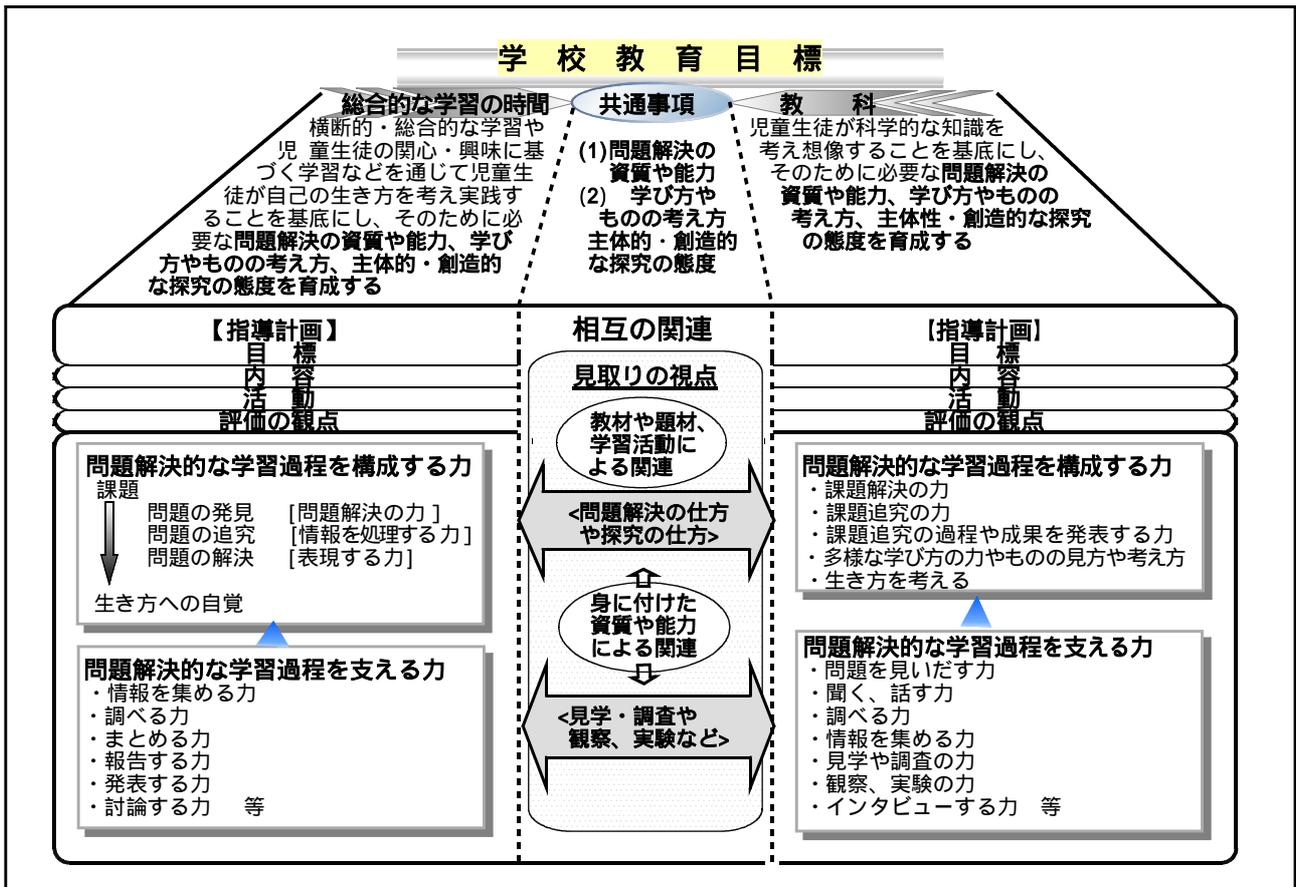
学習指導要領に定められた総合的な学習の時間のねらいをふまえた観点
教科との関連を明確にした観点
各学校の定める目標、内容に基づいた観点

あたっては、目標や内容と照らして、子どもの学習状況を捉える。そのために、単元や題材の学習における指導目標やそこで身に付けるべき基礎的・基本的な内容と観点との関連を明確にする必要がある。また、学習の過程を客観的に判断し、評価するために見取りの視点を作成し、多様な評価方法を工夫することが重要になる。本研究においては、この見取りの視点

あたっては、目標や内容と照らして、子どもの学習状況を捉える。そのために、単元や題材の学習における指導目標やそこで身に付けるべき基礎的・基本的な内容と観点との関連を明確にする必要がある。また、学習の過程を客観的に判断し、評価するために見取りの視点を作成し、多様な評価方法を工夫することが重要になる。本研究においては、この見取りの視点

を参考にすれば、教科との関連がより具体化するものとする。

以上、計画レベルにおける見直しについてまとめたものが【図3】である。



【図3】計画レベルにおける見直し

イ 実践レベルにおける見直し

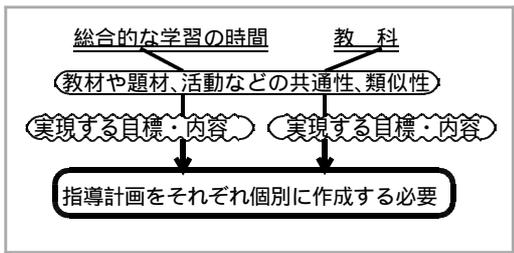
(ア) 教材や題材、学習活動などに共通性、類似性が見られる場合の関連

関連をめぐる問題点

「重複を避ける」「厳選を図る」という趣旨から、【図4】に示したように、教科での扱いが削除されることがあるが、教材としての目標や内容が個別に存在しているということをおさえる。

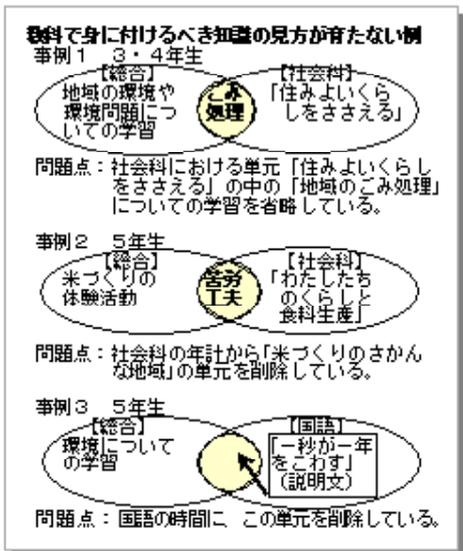
関連を考える基本原則

【図5】に示したように、教材や題材、学習活動が同じでも、身に付けるねらいが違うことをおさえ、関連付けるかどうかを判断する。



【図5】関連を考える基本原則

留意点としては、教科のねらいを曖昧にしないことや



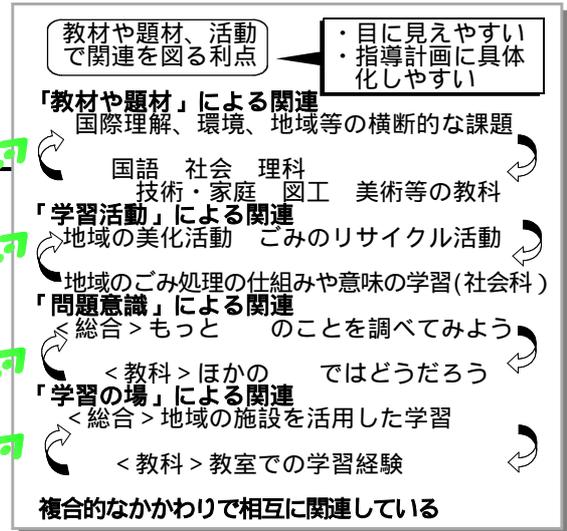
【図4】関連をめぐる問題点

教科を総合的な学習の時間のように扱ったり、総合的な学習の時間を教科のように扱ったりしないことなどがあげられる。

学習を構成する要素による関連

学習の深まりや広がりを目指すために、【図6】に示したように、学習を構成するいずれの要素について関連付けをするか整理しておく必要がある。

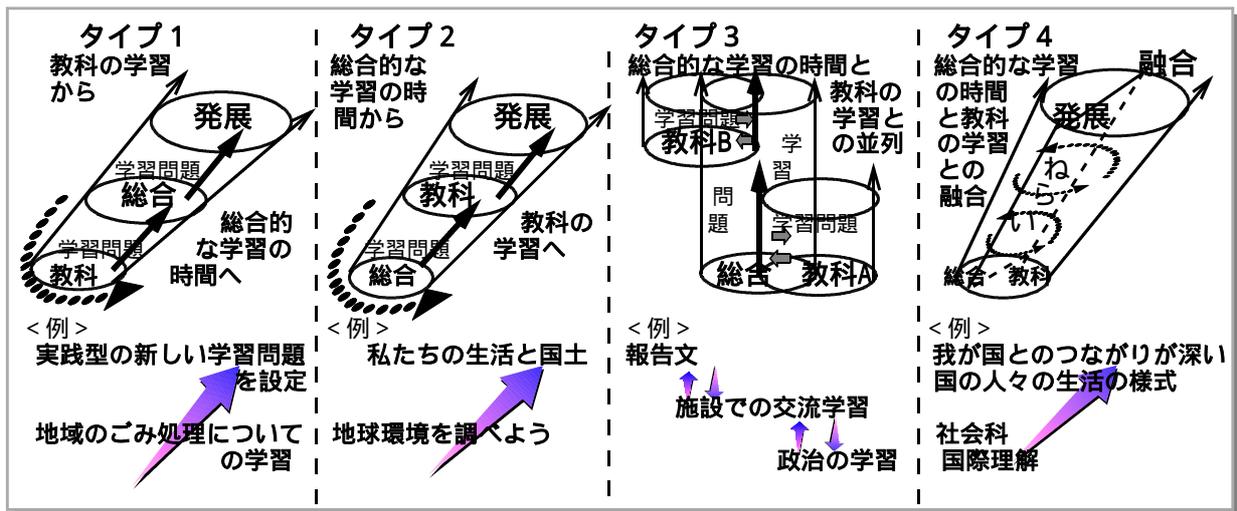
- ・「教材や題材」
学習のテーマが、総合的な学習の時間と教科の学習のどちらにも共通している場合
- ・「学習活動」
教科での学習活動を総合的な学習の時間に活用したり総合的な学習の時間から教科の学習活動へ発展させることができる場合
- ・「問題意識」
問題意識を広げたり深めたりしながら、学習が連続し、発展していくようにできる場合
- ・「学習の場」
教室での経験から、地域の施設を活用して学習するなど、学習の場を広げていくことができる場合



【図6】学習を構成する要素による関連

教材や題材、学習活動による関連を図る指導計画の類型

をふまえて、本研究における教材や題材、学習活動による関連を図る指導計画の類型を、【図7】のタイプ1～4に示した。



【図7】教材や題材、学習活動による関連を図る指導計画の類型

(1) 児童生徒が身に付けた資質や能力を相互に生かし合う関連

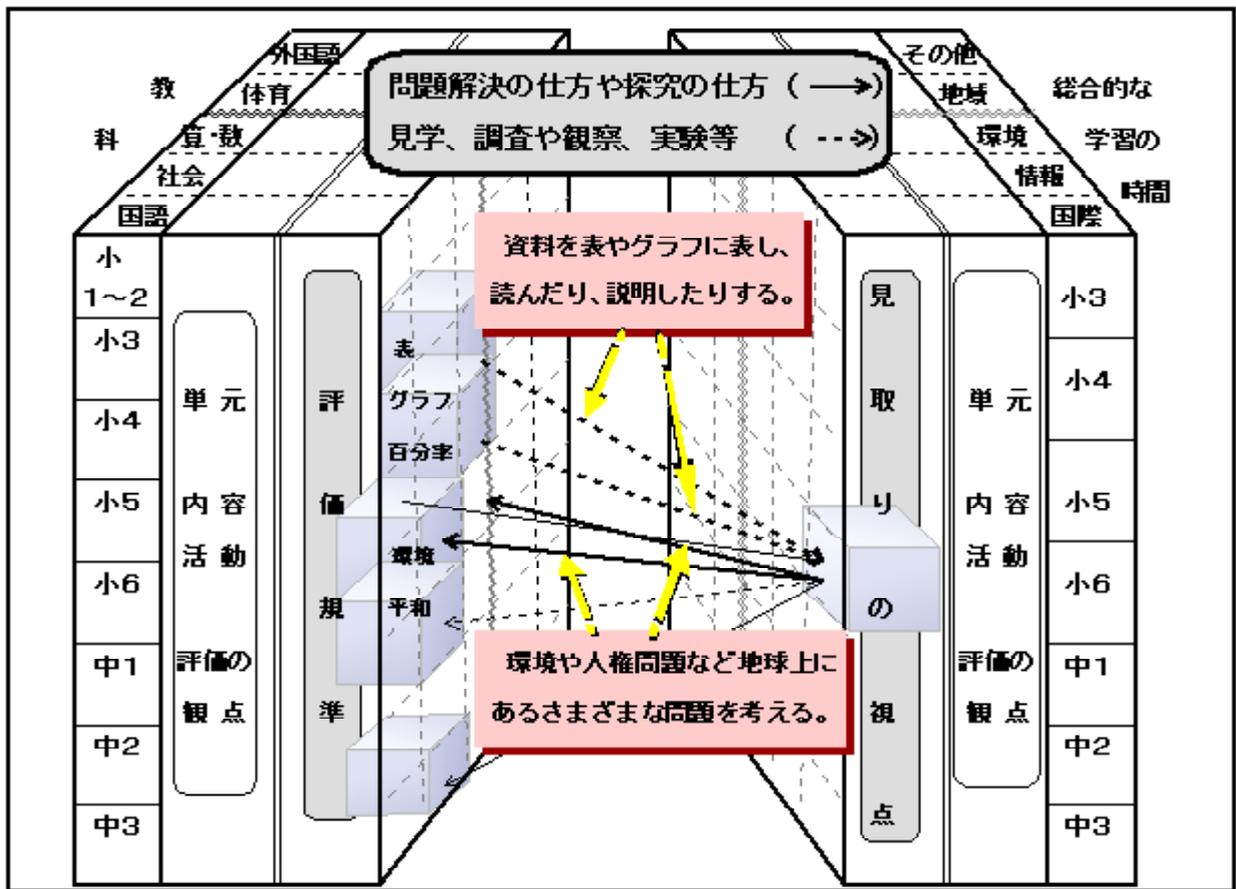
身に付けた資質や能力による関連の特徴

これは、関連させるものとして「身に付けた資質や能力」を位置付け、教科の学習で培った資質や能力を総合的な学習の時間で活用しながら相互に生かし合うように積極的に関連付け、総合化し、身に付けさせたい力を育成していくことをねらった関連指導である。この関連が連続性をもって継続されることにより、総合的な学習の時間と教科の中に相互に支え合う力を見いだした関連指導が図られる。

学習成果を結び付ける手だて

学習成果を結び付けるには、アの計画レベルにおける見直しで述べた総合的な学習の時間の評価の観点と見取りの視点を設定することにより関連事項が見え、具体的な計画を立てる上で有効であると考えられる。

以上、実践レベル（児童生徒が身に付けた資質や能力を相互に生かし合う関連）についての考え方をまとめたものが次頁【図8】である。



【図8】児童生徒が身に付けた資質や能力を相互に生かし合う関連についての考え方

ウ 学びの内面レベルにおける見直し

学びの内面レベルにおいて、関連指導によって、児童生徒の中で学びがどのようにつながっていったのかを捉えるためには、ワークシートやポートフォリオ等で学びの記録を残していき、学びを振り返る時間と場を設定して計画的に振り返らせること、教科の学習における学びと総合的な学習の時間における学びとを結び付けるガイドブック等の活用を図り、児童生徒自身で関連事項を発見することにより、関連の成果を意識付けていくことが大切であると考えます。つまり、相互の関連の意義を見だし学習の必然性を実感できる意識付けの工夫が大切になってくる。

教科との関連を図る総合的な学習の時間のリフォーム試案

1 リフォーム試案作成の基本的な考え方

(1) 全体構想の見直しと全体計画の作成

全体構想を見直し、教科との関連も含めた全体計画を作成するに当たっては、「何のために総合的な学習を進めるのか」「何のために教科との関連を図るのか」を再検討し、学校の教育課程の基本方針等を大切に示した全体計画を右に示したことに留意して作成する。

- ・学校教育目標をふまえて、学校独自の総合的な学習の時間に関する考え方を示す。
- ・総合的な学習の時間における期待する姿(身に付けさせたい力)を学年ごとに示す。
- ・総合的な学習の時間を充実させるための指導の工夫を示す。
- ・総合的な学習の時間と教科とを関連させた指導の在り方を示す。

(2) 育てたい資質や能力の明確化

総合的な学習の時間の本来の目的は、児童生徒に身に付けさせたい資質や能力の実現であり、その

道筋が体験的・問題解決的な学習であり、その中で児童生徒らしさを発揮していくものとする。そのためには、体験的・問題解決的な学習を通して児童生徒に育てたい資質や能力を明確にしておくことが大切である。その上で教科との関連が可能なものを教材や題材、学習活動、児童生徒が身に付けた資質や能力に分類・整理していく。具体的には、評価規準と見取りの視点から作業を進めることとする。評価の観点の設定においては、観点別評価で作成する。

(3) 相互の関連を図った単元指導計画の作成

総合的な学習の時間は学校独自のカリキュラムが要求され、学校や指導者が教科との関連を意図的、計画的に組み込み、目指す教育の方向性が見えるものでなければならない。そこで、教科との関連を図る総合的な学習の時間の単元指導計画を作成するために、育てたい資質や能力、共通の特質、課題を関連させて構造化を図る。

(4) 相互関連の指導・支援の見直し

見直しのポイントは教科を関連させることにより、より効果的で適切なカリキュラム作成ができたかどうかという、カリキュラムの開発のための形成的な評価を行うことが大切になると思われる。見直しの視点としては、右に示したことが考えられる。

- ・教える内容の詰め込みとして、事前に計画されたものではないこと
- ・一つの教科だけでなく、いくつかの教科が含まれるとともに、問題解決の過程で他教科にも広く期待されているものであること
- ・広い意味での学び方や自己への振り返り方の習得を含むものであること
- ・あるテーマや主題をめぐって位置付けられているものであり、児童生徒の意味付けに基づくかかわりを大切にするものであること
- ・児童生徒の経験の中に起こる最も重要なものは何かを取り扱うものであること

(5) 関連の成果の意識付け

教科での学習の成果を総合的な学習の時間で生かすことにより、それらの理解が深められたり、問題解決にあたり学習の意義を見いだしたりできるようになることや、総合的な学習の時間の内容から教科の学習の必然性を実感することができるようになることを意識付けていく工夫が大切である。

2 教科との関連を図る総合的な学習の時間のリフォーム試案

(1) 総合的な学習の時間のカリキュラム評価チェックシート

本研究においては、学校独自の指導計画、指導方法、指導体制、条件整備等の状況を点検し、教育目標を達成できるものになっているかどうかを判断して改善を加えるカリキュラム評価のためのチェックシートを、【表1】のように作成した。

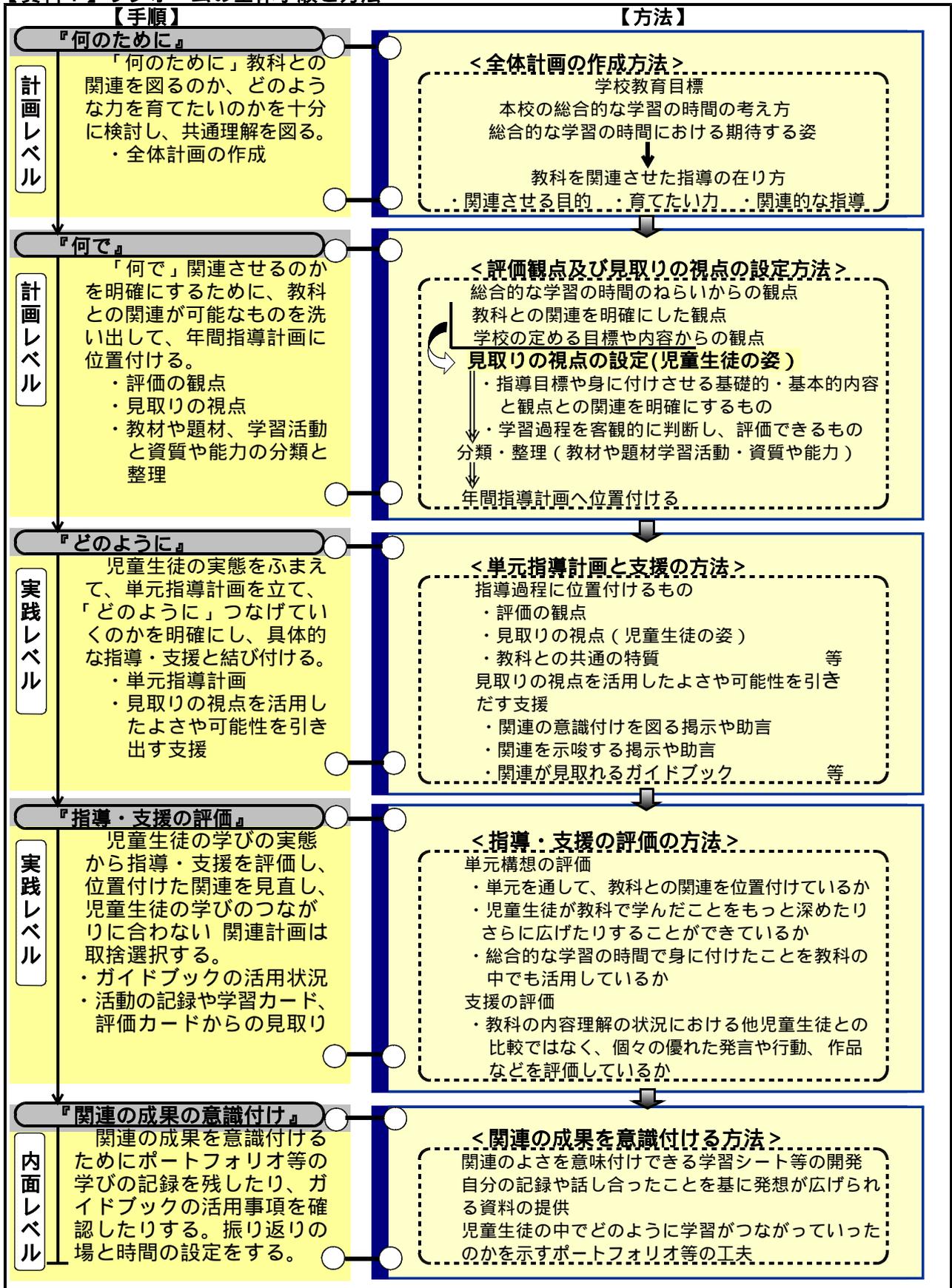
【表1】総合的な学習の時間のカリキュラム評価チェックシート（一部抜粋）

	評価の観点	レベル1	レベル2	レベル3
学校としての方針	目標・内容の明確化	単元の活動レベルでは検討されているが、総合的な学習の時間の目標や内容は明確にされていない。	学校としての目標、内容は明確にされているが、学年ごとには具体化されていない。	学校としての目標、内容が明確にされ、学年段階ごとにも具体化されている。
	評価の観点、見取りの視点の設定	観点や見取りの視点が設定されていない。	観点、見取りの視点は設定したが、学習過程の各観点ごとの見取りの視点は設定していない。	観点、見取りの視点を定め、学習過程の各段階ごとに見取りの視点が設定されている。
	人材活用、指導体制	校内での話し合いは行われず授業者がその都度協力依頼をすることになっている。特に考慮していない。	人材バンクや校内の共同指導体制についての話し合いがもたれ、共通理解が図られている。検討中である。	人材バンク登録者と連絡を密にしたり、登録者を拡大する取り組みが行われたりしている。
	隣接する学校との連携			進学先の学校などとの間で、カリキュラムについての情報交換を実施している。
	説明責任	地域や保護者に対して総合的な学習の時間についての説明及び協力依頼を実施していない。	総合的な学習の時間についての説明や協力依頼は行ったが、成果についての説明は考えていない。	総合的な学習の時間の趣旨説明や協力依頼を行い、さらに、成果や課題についての情報公開も計画している。
	学習課題の適切さ	短時間で課題が決められており、やりたいこと、楽しいことに偏りがちである。	十分な体験活動や資料収集を行った上で課題が設定されているが、問題意識という点では課題	学習スキルを高めつつ、生き方の自覚が図られるような、価値ある学習課題が設定されている。

(2) 教科との関連を図る総合的な学習の時間のリフォーム試案

総合的な学習の時間のキャリア評価チェックシートで現状を評価し、【資料1】に示したリフォームの全体手順と方法にしたがってリフォームを行うこととする。

【資料1】リフォームの全体手順と方法



研究のまとめ

1 研究の成果

第1年次の研究の結果、次のような成果が得られた。

- (1) 総合的な学習単元カリキュラムにおいては、総合的な学習の時間と教科の学習の時間において、学習内容と学び方に視点を向けることによって、相互に相乗・補完し合う資質や能力等の関連の方向性を見いだすことができたこと
- (2) 学習内容と学び方は、教材や題材、学習活動と身に付けた資質や能力に分類・整理することができ、教科における評価規準と総合的な学習の時間における学習過程を客観的に判断するための見取りの視点を照らし合わせることにより、以下の三点について明らかになった。
 - ア 教材や題材、学習活動と身に付けた資質や能力による関連が明らかになること
 - イ 関連事項は計画レベル、実践レベル、学びの内面レベルという各段階に位置付くこと
 - ウ 各レベルでの関連事項を指導計画に意図的に組み込むことができること
 - エ 総合的な学習の時間のカリキュラムを点検するための評価チェックシートを作成し、各レベルにおいて改善を加えるための手順と方法を明らかにした教科との関連を図る総合的な学習の時間のリフォーム試案を作成することができたこと

2 今後の課題

第2年次の研究では、教科との関連を図る総合的な学習の時間のリフォーム試案を基に、教科との関連を図る総合的な学習単元カリキュラムを作成し、指導実践をとおして試案の妥当性の分析と考察を行い、「総合的な学習単元カリキュラム・リフォームの手引き」を作成する。

【参考文献】

- 早坂五郎 編著、「双方向からの総合的な学習」、東洋館出版、2000
- 東京都立教育研究所、「総合的な学習の時間の年間計画の作成」、2000
- 北 俊夫 編、「総合的な学習」のカリキュラムの実際、明治図書、2001
- 小川哲哉 著、「カリキュラムデザインと評価の実際」、東洋館出版、2001
- 東京都教育委員会、「小学校総合的な学習の時間指導資料 第3集 評価編」、2002
- 新潟県教育委員会、「児童生徒の学習状況の評価について」、2002
- 「総合的学習を創る 12月号」、明治図書、2002
- 独立行政法人 教員研修センター、教職員等中央研修講座シリーズ、
- 「総合的な学習の時間〔小学校版、中学校版〕」、2003

【参考URL】

国立教育政策研究所 “総合的な学習の時間と評価の工夫”

<http://www.nier.go.jp/seika/sogo-report/sogo.htm>

山梨県総合教育センター “総合的な学習の時間カリキュラム評価チェックリスト例”

<http://mquicksv.kai.ed.jp/cgi-bin/myweb.exe/#seek>